



－ 公社化から10周年を迎えました －

豊島病院は平成21年の公社化から今年で10周年を迎えました。平成11年の開設当初は都立でしたが、平成21年4月に財団法人東京都保健医療公社に運営移管し、病院名称も「財団法人東京都保健医療公社豊島病院」に変わりました。公社化を契機としてそれまでの医療機能を一層強化し、地域の中核病院として周囲が求める最善の医療を提供していけるように医療連携の更なる促進に向けて取り組んでまいりました。

この10年の豊島病院のあゆみ

- 平成22年8月 地域医療支援病院に認定される。
- 平成24年4月 東京都保健医療公社が財団法人から公益財団法人へ移行。
- 平成26年6月 新基準となった病院機能評価 3rdG:Ver/1.0の認定を受ける。
- 平成27年8月 電子カルテシステムを導入。
- 平成28年2月 ハイケアユニットを8床設置し、あわせて救急外来診察室を3室から6室へ拡張し、救急搬送患者をはじめとする重症患者の受け入れ態勢を強化。
- 平成31年4月 JMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)に認証される。

「私たちは、まごころを込めて最善の医療を提供し、地域社会に貢献いたします」という豊島病院のモットーを全うすべく、地域医療支援病院として今後もなお一層の努力をしてまいります。



豊島病院 予約センター 03-5375-5489 (紹介予約制)

予約受付時間 平日9時00分～19時00分 土曜日9時00分～12時00分

イエメンにおけるコレラの流行と対策

感染症内科医長 足立 拓也

1. コレラとは...

コレラは、コレラ菌の感染により激しい下痢を起こす病気です。歴史的には、天然痘、ペストと並び、人類を苦しめてきた病気のひとつです。従来はガンジス河口流域の風土病であり、1498年にバスコ・ダ・ガマが初めてヨーロッパから海路でインドに到達したとき、インドの20,000人もの人々が腹部の病気のため次々に落命した記録が残されており、コレラであったと考えられています。産業革命の中、1807年に蒸気船が実用化され、国際的な交通網の発達に伴い世界中に流行が拡大した、グローバル化を反映した感染症の先駆けでもあります。

文政5年(1822年)と安政5年(1858年)には日本に上陸し、長崎から東進して江戸に至り、2か月で28,000人とされる多数の死者を出しました。

現代の日本では、コレラは年間10名を下回るほど数少ない病気になりましたが、世界的には上下水道が整備されていない地域で、まだ多数の患者が発生しています。

2. イエメンの現状とこれからの課題について...

アラビア半島の南端にあるイエメンでは、2011年の「アラブの春」以降、反政府デモが頻発し、2015年には反政府勢力フーシ派が首都サナアを占領するなど、ハディ政権とフーシ派の内戦が続いています。多数の人々が家を追われて避難民となり、2017年以降、100万人を超えるコレラ患者が発生し、大規模な人道危機となっています。

今回、2019年6月から7月にかけて、世界保健機関(WHO)の緊急要請を受けて、WHOのコレラ対策チームに参加しました。イエメン保健省の責任者と協力し、①コレラ治療施設の実地調査、②コレラ治療指針作成、③医療者研修企画、④コレラ菌の薬剤感受性の分析を行いました。

イエメンにおけるコレラの流行は広い範囲で続いており、一部地域では雨季に入って患者数のさらなる増加が報告されています。現地の医療従事者はよく訓練され、患者の治療に連日あたっていますが、流行規模が大きいため医療従事者確保に多額の人件費が必要であること、治安の懸念から上下水道の整備がなかなか進まないことは、根本的な課題です。

グローバル化時代の感染症対策は、日本国内で完結するわけではありません。感染症内科は、学術活動や人道支援を通じた国際貢献を目指しています。

国名：イエメン共和国(首都：サナア)
面積：55.5万平方キロメートル
(日本の約1.5倍弱)
人口：約2,892万人(2018年/国連)



現地での活動の様子



豊島病院緩和ケア週間を開催します！

テーマ：「知ってください！ 緩和ケア」

日時：2019年10月7日(月)～10月11日(金)

1階、2階 外来エリアでポスター展示、ウィッシュツリーを行います。ぜひお立ち寄りください。

皆さんにメッセージを書いていただきます。

ウィッシュツリー



誌名である「パティオ」はスペイン語で中庭のことで、当院1階にある患者さんや職員にとっての憩いの場所です
公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 <http://www.toshima-hp.jp> 東京都板橋区栄町33-1
(病院代表) 03-5375-1234 : (予約専用) 03-5375-5489
豊島病院広報誌第106号 発行者：安藤 昌之(豊島病院副院長) 編集：企画係

